令和５年度　助産師資質向上・確保対策に関する実態調査結果(病院)

Ⅰ　概要

１　調査目的：産科・産婦人科を標榜する県内の病院における助産師の活動状況や院内助産・助産師外来、保健指導等の実施状況を把握し、事業や施策内容に反映する。
２　調査対象：令和５年４月１日時点で産科・産婦人科を標榜する病院（55 病院）
３　調査時期：令和６年３月 28 日～令和６年４月 19 日
４　調査方法：メールで調査依頼し、調査様式（Excel ファイル）をメールで回収
５　回答数　：54 病院（回収率 98.2%）
６　回答者　：看護職（部長、師長等）50 病院、事務職４病院

Ⅱ　結果

１．基本情報

（１）産科関連取扱状況について

分娩取扱病院１件が未回答であったため、分娩取扱件数は前年度より１件減少している。

	全数	分娩取扱有	妊婦健診等	婦人科のみ	産科･産婦人科両方休止	助産業務有
R5	54	36	6	9	3	46
R4	55	37	8	7	3	43

（２）分娩件数や病棟や病床数について

分娩件数は 16,427 件と令和４年度 16,300 件から 127 件増加、帝王切開件数は 4,825 件と令和４年度 4,696 件から 129 件増加している。令和５年度調査から無痛分娩件数を追加、2,195 件であった。

	分娩件数	帝王切開件数	無痛分娩件数	産科病棟	混合病棟	うち産科病床
R5	16,427	4,825	2,195	420	1,023	530
R4	16,300	4,696	-	429	1,012	408

【参考】出生数あたりの帝王切開率　R4：14.4%（出生数 33,565 件　帝王切開 4,825 件）
R3：12.7%（出生数 36,581 件　帝王切開 4,650 件）

２．貴院の産科・産婦人科の状況について（産休・育休除く）

（１）職員数について

助産師の実人員は、病院全体では 1,069 人と令和４年度 1,059 人から 10 人増加し、産科病棟では 784 人と令和４年度 748 人から 36 人増加している。常勤換算は､病院全体 1005.54 人、産科病棟 731.52 人であり、昨年度並となっている。

	医師		助産師（病院全体）		助産師（再掲：産科病棟）	
	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算	実人員	常勤換算
R5	392	298.28	1,069	1005.54	784	731.52
R4	379	296.91	1,059	1009.79	748	728.82

（２）産科病棟以外の配属実人数

外来(産婦人科)	一般外来	内科系病棟	NICU・GCU	小児科系病棟
115	20	40	56	22

外科系病棟・手術室・ICU	管理部門（看護部）	地域連携室・健康管理室	自由項目（その他）
20	22	8	20

【参考】令和５年度　看護職員の確保状況等に関する実態調査結果
（産科・産婦人科を標榜する 55 病院中 54 病院回答）

〇助産師の採用・退職状況

	常勤	非常勤	合計
令和 4 年 4 月 1 日在籍看護職員数	1,010	93	1,103
令和 5 年 3 月 31 日在籍看護職員数	977	99	1,076
総退職者数	85	9	94

〇１年未満の助産師の採用・退職状況

	新卒		既卒		合計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
採用者数	88	1	26	14	114	15
退職者数	5	0	5	1	10	1

【助産師の退職率】

総退職率	8.6%
常勤	8.6%
非常勤	9.4%
１年未満退職率	8.5%
新卒	5.6%
既卒	15.0%

以下、助産師業務を行っている病院のみ回答（N＝43）

３．院内助産・助産師外来等について

（１）院内助産・助産師外来の設置状況

助産師外来の開設数は 14 病院と令和４年度 13 病院から１病院増加し、年間件数は 4,752 件、従事者数は 142 人であった。

院内助産・助産師外来を両方設置する病院は横ばい、院内助産も R4 年と変わらず７病院である。年間件数は、院内助産 138 件、 助産師外来 1,502 件で、従事者数は、院内助産 64 人、助産師外来 56 人であった。

（２）保健指導等の実施状況

	保健指導			未設置
R5	16	定期	11	10
		不定期	5	
R4	17	定期	12	6
		不定期	5	

（３）今後の実施予定

	院内助産（N=39）	助産師外来（N＝25）	保健指導（N=11）
あり	0	1	3
なし	39	24	8

４．助産師の確保・定着状況について

（１）助産師の確保状況

確保できている	不足している	不足人数
31	15	41

「不足している」と回答した病院の内訳

周産期母子医療センター・地域周産期病院	8
その他	7

【不足の要因（自由記載内容）】
- 応募者が少ない（4 件）
- 産休、育休、休職に伴う人員不足（4 件）
- 指導人員の不足（3 件）
- スキルアップの訓練が困難（2 件）
- 給料が看護師と差別化されていない
- 分娩数の多いクリニックへの転職
- 分娩数減少に伴い人員が削減された

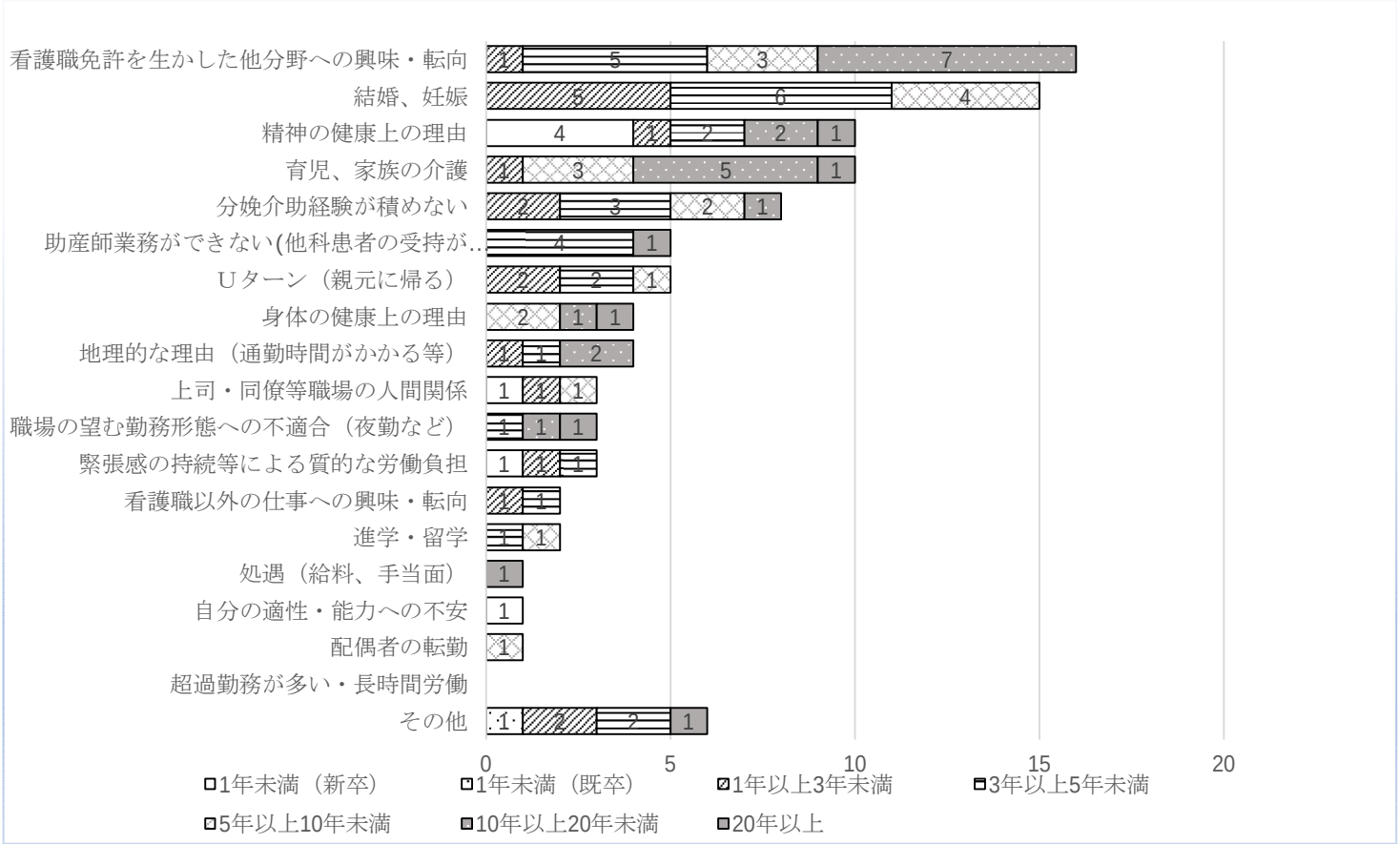
等

（２）助産実践能力習熟段階ﾚﾍﾞﾙⅢ認証制度（CLoCMip）

	取得者	新規取得者	未更新者
R5	262	33	25
R4	267	21	23

（３）経験年齢別の退職理由（複数回答可）

助産師の退職理由として多かった項目は､「看護職免許を生かした他分野への興味･転向（16 件)」、「結婚、妊娠（15 件)」、「精神の健康上の理由（10 件)」、「育児、家族の介護（10 件)」となっている。１年未満の退職理由は、新卒では、「精神の健康上の理由（4 件)」、「上司・同僚等職場の人間関係（1 件)」等、既卒では、「その他（1 件)」であった。



５．助産師の活躍促進について

（１）人材育成の取り組みについて（3 項目まで選択可）

項目	回答数
助産に関する研修参加	33
合併症やﾊｲﾘｽｸ妊婦への対応に関する研修企画や参加	24
助産領域以外の研修参加	19
助産師クリニカルラダーを活用した人材育成	19
産後ケア実務助産師研修への参加	8
NICU、GCU 等へのローテーション	7
産科がある系列病院への異動や出向、研修	6
正常分娩介助経験のため出向	3
その他	7

【その他の内容】
・新生児看護に関する勉強会企画
・乳房ｹｱ、ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽに関する研究発表や研修会への参加
・分娩時母体急変シミュレーション
・保健所と連携して地域医療会議を開催
・看護学校への出向　　等

（２）産後ケアの実施について

産後ケアは 26 病院で実施し、宿泊型（23 病院）、デイサービス型（17 病院）、アウトリーチ型（６病院）、産婦健康診査（22 病院）を実施している。今後実施予定がある病院は４病院あり、宿泊型（４病院）、デイサービス型（４病院）、産婦健康診査（４病院）を予定している。

①　実施状況

実施している	今後予定がある	実施予定はない
26	4	17

②　実施事業内容（N=26、複数回答可）

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
23	17	6	22

③　今後予定する事業内容（N=7、複数回答可）

宿泊型	デイサービス型	アウトリーチ型	産婦健康診査
4	4	0	4

６．自由記載項目

55 病院のうち 25 病院が記載した意見内容を分類したところ、「現状８項目」「課題３項目」「助産師の資質向上や活躍推進に必要な取り組み 13 項目」「地域に必要おける取り組み 21 項目」の計 45 項目あり、表のとおり、カテゴリー・サブカテゴリーにまとめた。

（１）現状　　※複数記載があった内容は、（　）内に件数を記載

カテゴリー	サブカテゴリー
助産師について	分娩を再開したいが、助産師が不足している。
	助産師が看護師として採用されている。
分娩数の減少について	出生数減少で助産師の活躍の場が減少している。
	病院施設で分娩件数が減少している。

（２）課題

カテゴリー	サブカテゴリー
産後ケア事業について	産後ケアの需要に共有が追いついていない
	三後家輪を実施できる施設が増加する取り組みが必要
助産師の活躍について	病院だけでなく地域で助産師が活躍できる体制構築が必要
	看護師として採用された助産師のモチベーション維持・向上が困難
地域連携	保健師を介して関わると情報伝達が上手くいかない。

（３）助産師の資質向上や活躍推進に必要な取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー
助産師の資質向上について（6）	ケアの資質向上には様々な場面で研修する必要がある。
	研究発表・演習への参加を実施
	総合病院内で各部署であらゆる妊産婦への対応能力向上のたねに活動している。
	助産師がスキルアップできる環境整備が必要。
地域連携について	子育て講習や更年期ライフについての講習企画検討中
	公立病院と保健センターが連携した母子支援事業に参加している。
	出前授業等は輪番や紹介を希望
	間掖機関同士が連携しやすくなるシステム構築や研修企画を希望

助産師の連携について	助産師同士の交流の場が必要、仕組みがほしい。
	地域の助産師からの指導の機会がほしい
	産後ケア事業の活動交流会希望
助産師の活躍について	アドバンス助産師の活躍の場を拡大する

（４）地域における取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー
行政、保健師との連携	行政から病院とうに委託している事業へ行政担当者が参加してほしい
	参加に特化した訪問看護や支援サービスの充実を希望
	地域の保健師とハイリスク妊婦情報共有の場がほしい
産後ケア事業について	ハイリスク妊婦への継続支援を実施している
助産師の各地域の連携について	無為地区以外の助産の取り組みを知りたい
助産師の活躍の場について	児童虐待防止における CPT チームや地域との連携
その他	地域関連機関との関係は良好